

## 業務実績に対する自己評価委員の主な意見

項 目	意 見
1 事務の効率化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般管理費について既に中期目標をクリアするなど、中期計画に沿って進んでいる。</li> <li>・図書について、電子ジャーナルの導入を検討してはどうか。</li> </ul>
2 施設整備の効率的利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成13年度に比較して貸し付け件数及び金額ともほぼ倍増しているが、更に対外PRに努め、一層の効率的利用を進めて欲しい。</li> </ul>
3 他機関との連携等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規の共同研究についてはH13年度並の数で実施されるなど、中期目標の達成に向けて、精力的に連携が進んでいる。</li> <li>・行政ニーズを学術的な分野により一層反映させるためにも、今後とも大学との共同研究、論文発表を積極的に行って欲しい。</li> <li>・冬期の道路の雪氷管理に関する技術に関して、世界的に高い評価を受けている。世界の中で一層指導的な役割を担うために、北米/北欧諸国の先進地域との連携だけでなく、開発途上国との研究員や情報の交換が望まれる。</li> </ul>
4 技術の指導及び研究成果の普及	<ul style="list-style-type: none"> <li>・論文発表の数の増など、中期計画に沿って進んでいる。</li> <li>・時間的制約が多い現場への技術的指導については、さらなる迅速性が確保されるようにして欲しい。</li> <li>・積極的に技術指導を行うという姿勢が十分に伝わりその努力は評価される。学術的な面での研究成果の発表に関しては、より一層の努力が望まれるところ（特に査読付き論文）であり、例えば学術誌ごとのポイント制などを導入するなど、研究所の運営方針をより明確にするなどしてはどうか。</li> <li>・特許出願件数のほか、特許収入額でも今後評価していくべき。</li> </ul>
5 試験研究等の受託	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中期目標達成に向けては問題ないと思われるが、独法となった意味からも文科省の科研費等の競争的資金獲得や道内地方公共団体からの受託研究は一層の積極的獲得を目指すべき。</li> <li>・国際誌への論文掲載は、科研費獲得に大きく寄与する。</li> </ul>
6 人事に関する計画関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後とも優秀な研究員の確保に努めていくことが望まれる。</li> <li>・道内地方自治体の技術者との交流を進めてはどうか。</li> <li>・在外研究員派遣制度を創設し、研究者の育成や研究レベルの向上化を図っていることは高く評価されるが、現状の研究職員の学位取得率は低いと思われる。学位が研究所のレベルを直接的に示す指標ではないが、一般国民への説明責任からも取得に向けて一層の努力をしてほしい。</li> <li>・ポスドク枠を増やすことが望まれる。</li> </ul>
7 その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会のニーズをめざとく把握し、中期計画を短期的に見直しながら北海道のためになる研究を進めることを期待する。</li> </ul>